

発泡箱でトマトづくり！簡易養液栽培法のポイントは？

道総研 花・野菜技術センター 研究部 花き野菜・生産環境 各グループ
ホクレン農業協同組合連合会 農業総合研究所

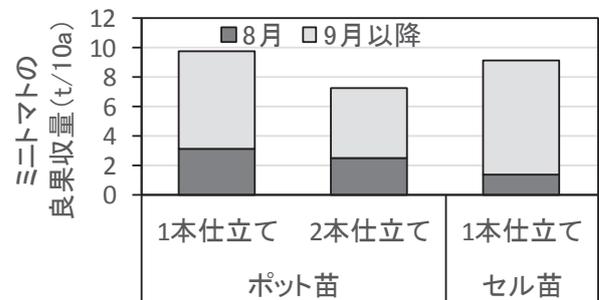
1. 成果の概要

養液栽培システム「ういず One」（JA全農が開発した低コストで設置・撤去が容易な養液栽培システム）を用いた6月定植におけるミニトマト、大玉トマトの栽培管理法を開発しました。

2. 成果内容

【ポイント1】ミニトマトの仕立て法、育苗法

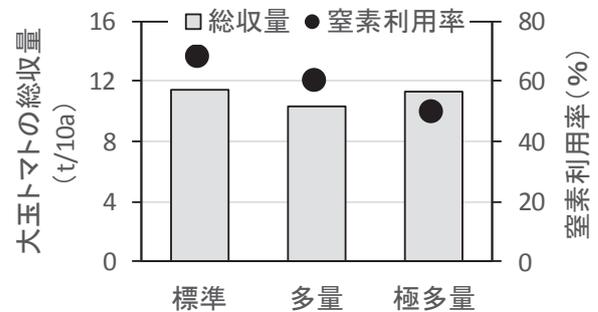
- 多収 → 1本仕立て・標準給液量
- 省力低コスト → 2本仕立て・極多量給液量
- 育苗省略 秋季多収→セル苗定植・標準給液量



1本仕立て：H29,H30年標準給液区の平均値
2本仕立て：H30年極多量給液区の数値

【ポイント2】給液量、施肥量

- 過剰な給液は肥料の無駄（廃液量は給液量の30%程度）
- 施肥量はトマトの生育に合わせて適量与える（量的管理）



【ポイント3】栽培槽

○栽培槽は発泡スチロール製であるため、夏場でも培地温は25℃以下→夏でも根は元気！

本システムの概要

